



新編題名及句集

秋

八十番

14  
3157  
21(3)



14  
3157  
21  
(3)

越後國  
三日七  
田日島  
印市郡國

新類題跋白集秋之部

七月

文月

立秋

時林

文月やあきとて草花あり  
あきやあきとてあきとて小傾城  
秋よりやあきとてあきとて  
あきとてあきとてあきとて  
あきとてあきとてあきとて  
あきとてあきとてあきとて  
あきとてあきとてあきとて  
あきとてあきとてあきとて

蝶夢編



尾 琴之  
吳三  
菊二  
檀門  
潭月  
白輅  
黃吻



初秋

市原り秋の葉は先づ那  
けはれ林まはる涼風入信音  
秋の風もささる木葉の音  
秋の月もささる木葉の音  
秋の光もささる木葉の音  
秋の影もささる木葉の音  
秋の香もささる木葉の音  
秋の色もささる木葉の音

着戸 素郷 雨落 尺布 楚水 松夢 杜若 楓平

秋一

二星

錦州の星もささる木葉の音  
李秋の星もささる木葉の音  
有る星もささる木葉の音  
秋の星もささる木葉の音  
秋の星もささる木葉の音  
秋の星もささる木葉の音  
秋の星もささる木葉の音  
秋の星もささる木葉の音

独雪 如毛 三霞 英祿 眠亭 鳥語 露橋 曹旭 万容 成英

天行

天行の星もささる木葉の音  
天行の星もささる木葉の音  
天行の星もささる木葉の音  
天行の星もささる木葉の音  
天行の星もささる木葉の音  
天行の星もささる木葉の音  
天行の星もささる木葉の音  
天行の星もささる木葉の音

露橋 曹旭 万容 成英

鶴橋

横手六鶴のたし乃新なるは

坐忘

乞巧奠

かき入れ乃橋のあまのつとねあふ

曲浦

願糸

あふいさく一平のあまのつとねあふ

梨枝

立琴

あふいさく一平のあまのつとねあふ

一行

梳葉

あふいさく一平のあまのつとねあふ

大島

秋二

握葉線

よき舞のりしるはなをそのは

馬十

芋葉露

あふいさく一平のあまのつとねあふ

座忘

硯洗

あふいさく一平のあまのつとねあふ

自笑

池坊之嘉

あふいさく一平のあまのつとねあふ

東蘆

峯入

あふいさく一平のあまのつとねあふ

習之

六道平巻

あふいさく一平のあまのつとねあふ

可亭

魂迎

盃菊金

盆月

魂奈

いさよふに牛の尾のしんじり

若は若きこころ麻子火のゆり

まじりてさうり風乃ちまのり

うらやまのしんじりまのり

うらやまのしんじりまのり

いのみ月詠のゆりまのり

猪城の早のりまのり

踊子のしんじりまのり

うらやまのしんじりまのり

武隆のしんじりまのり

立州

南河

五清

葉二

仙宮

其思

古案

杜音

坐不

二柵

秋三

意棚

意棚のしんじりまのり  
若は若きこころ麻子火のゆり  
まじりてさうり風乃ちまのり  
うらやまのしんじりまのり  
うらやまのしんじりまのり  
いのみ月詠のゆりまのり  
猪城の早のりまのり  
踊子のしんじりまのり  
うらやまのしんじりまのり  
武隆のしんじりまのり

楚群

青註

素外

輝半

如猿

雨石

荷淨

蘭園

有柵

枝法

蓮飯 桐經 麻柯著 蓮飯 蓮飯

蓮飯の燈籠の如く  
 蓮飯の燈籠の如く  
 蓮飯の燈籠の如く  
 蓮飯の燈籠の如く  
 蓮飯の燈籠の如く  
 蓮飯の燈籠の如く  
 蓮飯の燈籠の如く  
 蓮飯の燈籠の如く

蓮飯 蓮飯 蓮飯 蓮飯  
 蓮飯 蓮飯 蓮飯 蓮飯  
 蓮飯 蓮飯 蓮飯 蓮飯  
 蓮飯 蓮飯 蓮飯 蓮飯

秋四

高野様 墓泰 招待 送火

高野様の燈籠の如く  
 高野様の燈籠の如く  
 高野様の燈籠の如く  
 高野様の燈籠の如く  
 高野様の燈籠の如く  
 高野様の燈籠の如く  
 高野様の燈籠の如く  
 高野様の燈籠の如く

高野様 墓泰 招待 送火  
 高野様 墓泰 招待 送火  
 高野様 墓泰 招待 送火  
 高野様 墓泰 招待 送火

大文字  
妙法火  
舟火  
切籠燈籠

眠花  
鳥咽  
柺友  
篠袴  
五雲  
坐  
何有  
太々  
花尾  
立季

秋五

揚燈籠

曙

梅東  
雨沼  
祇尹  
笙海  
老蟻  
槐主  
鯨愛  
坐  
柺友  
白轆

おおりのしるしをよめる神の波  
 我のこころをよめる神の舟  
 燈籠をよめる神の鐘  
 松のこころをよめる神の松  
 入道によめる神の松  
 明によめる神の松  
 輝によめる神の松

桂下 巨谷

香凡

佐下 懐花

孤掉

如平 菊隈

不盾

竹風

松後 一夢

夕樺

葉里

秋六

生身魂 結縁をよめる神の松  
 差鯖 結縁をよめる神の松  
 送行 結縁をよめる神の松  
 地盤桑 結縁をよめる神の松  
 巻久入 結縁をよめる神の松  
 相撲 結縁をよめる神の松

松下 馬肝

石蘭

松尾 蓬亭

極雲

丹波 弓隨

菊

祥然

松尾 松尾

五鹿

松尾 星夜



花火

あつちのふりかへりかき掃草云  
投まきし神のまゝのりお撲より  
有るふりかへりかき掃草云  
つらまきし神のまゝのりお撲より  
まゝのふりかへりかき掃草云  
踏まきし神のまゝのりお撲より  
角餅まきし神のまゝのりお撲より  
お撲よりかき掃草云  
雲の夜はまきし神のまゝのりお撲より  
掃草云

几筆  
珥水  
六馬  
一狐  
幽堂  
鑑夢  
百柳  
立季

秋七

捨扇

位者のまゝのりかき掃草云  
骨にまきし神のまゝのりお撲より  
掃草云  
花のまきし神のまゝのりお撲より  
からまきし神のまゝのりお撲より  
田のまきし神のまゝのりお撲より  
心まきし神のまゝのりお撲より  
まきし神のまゝのりお撲より  
夕のまきし神のまゝのりお撲より  
秋のまきし神のまゝのりお撲より

上野  
湖房  
主信  
茂与  
送枝  
時中  
吳造  
恩文  
尺布  
蒲尺

初嵐

弃扇

秋風

秋風や 柳を吹く  
ささる 柳を吹く  
みかんのふきとる 秋の歌  
あはれ風や 痛き心  
阿ま風や 眉を吹く  
ゆき風や 涙を吹く  
老僧の 心は 秋の  
まはる 心は 秋の  
秋の 心は 秋の

三川 葉路  
子好  
古歌  
三鼓  
五雀  
一風  
李清  
五跡  
風五  
香雪

秋八

朝涼

吟

秋風や 朝涼  
夕涼の 意は 秋の  
夕涼の 意は 秋の  
夕涼の 意は 秋の  
夕涼の 意は 秋の  
夕涼の 意は 秋の  
夕涼の 意は 秋の  
夕涼の 意は 秋の  
夕涼の 意は 秋の  
夕涼の 意は 秋の

仙人  
龍石  
松夕  
削石  
雲清  
梅序  
字甲  
雲南  
黄治

身入

残暑

露

冷くも秋の月の露を  
しらぬも身入るるも  
伊の志も心も秋の露  
まじりての心も秋の  
推して心も秋の露  
秋の露も心も秋の  
秋の露も心も秋の  
秋の露も心も秋の  
秋の露も心も秋の

木朶  
山吹  
鴻水  
梅金  
梅秋  
優曇  
鳥咽  
那弓  
菊隱  
素心

秋九

霧

朝霧も秋のやまの  
阿の志も心も秋の  
露も心も秋の  
露も心も秋の  
露も心も秋の  
露も心も秋の  
露も心も秋の  
露も心も秋の  
露も心も秋の  
露も心も秋の

葉戸  
群長  
東蒿  
蝶夢  
花毛  
木水  
連枝  
春溪  
五周  
絶心

稻妻

木下りのついでに高松の  
山崎のついでに高松の  
高松のついでに高松の  
高松のついでに高松の  
高松のついでに高松の  
高松のついでに高松の  
高松のついでに高松の  
高松のついでに高松の  
高松のついでに高松の  
高松のついでに高松の

右桑  
南二  
栗堂  
五末  
古泉  
東館  
荳路  
唇邦  
文部

世十

稲光  
一葉散

稲光のついでに稲光の  
稲光のついでに稲光の  
稲光のついでに稲光の  
稲光のついでに稲光の  
稲光のついでに稲光の  
稲光のついでに稲光の  
稲光のついでに稲光の  
稲光のついでに稲光の  
稲光のついでに稲光の  
稲光のついでに稲光の

魚文  
深文  
竹風  
爐勢  
六花  
迷猷  
可休  
八極  
楚江  
山加







草花	千日紅	水引草	狼尾草	旋覆花	冬花	蕪荷を	鬱金花	曼珠沙華	仙翁花
これおきくはあまのこも	ついでに	ついでに	ついでに	ついでに	ついでに	ついでに	ついでに	ついでに	ついでに
酒速	雪平	柳平	柳平	乙馬	友雲	周耕	周路	周路	百毒

秋十四

芭蕉	忍草
庭の口かきしる色香の	あまのこも
吸露	其音
	于雲巴
	素心
	小魚
	松音
	文中
	杏後



ちんちん...  
出

二...  
二

...  
膳美

...  
秋飾

...  
秋飾

...  
子羽

...  
身頂

...  
亮極

...  
古道

...  
古道

角力神

瓢

夕類

出

二

膳美

秋飾

秋飾

子羽

身頂

亮極

古道

古道

秋十五

木瓜實

桃實

蓮葉龜

刀豆

菽花

隱元豆

西瓜

木瓜

...  
蚊山

...  
桃依

...  
公見

...  
其丁

...  
素寮

...  
有政

...  
苦白

...  
篠袴

...  
龜

後中

末

加賀

和

布瓜

南瓜

番椒

生薑

早稻

Handwritten cursive text for the right page, corresponding to the items listed below.

仙真

斗術

電計

那戸

曹阿

北魚

雅曼

楓子

漁毒

其白

秋十六

稿

田虫送

虫

Handwritten cursive text for the left page, corresponding to the items listed below.

以流

牛刀

東几

紫海

有之

野弓

素輪

柘路

万花

蛇心

素郷  
 曾秋  
 其雨  
 如海  
 荷葉  
 吳雪  
 星夜  
 其之  
 塘里  
 東舟

秋十七

虫撰  
 虫合  
 虫籠  
 虫賣  
 蚕

虫撰  
 虫合  
 虫籠  
 虫賣  
 蚕

文登  
 俊祐  
 小播  
 口水  
 道肥  
 葉家  
 葛存  
 周路  
 東走  
 蝶曼

蓬  
 史  
 史  
 史  
 史

蓬の  
 史の  
 史の  
 史の  
 史の

秋十八

蚤  
 蜻  
 寵  
 鼻

蚤の  
 蜻の  
 寵の  
 鼻の

包后 九十  
包后 其柗  
包后 如柗  
包后 二考  
包后 吾石  
包后 甜養  
包后 井々  
包后 青々  
包后 梅

蠐螬

蝱虫

松虫

鈴虫

福也... 蠐螬の...

瑞州

蠐螬の...

和泥

蝱虫の...

集

蝱虫の...

蝱虫の...

半結

松虫の...

盾凡

松虫の...

之代

松虫の...

露友

鈴虫の...

亞柳

善虫

蚯蚓

藻虫

蜻蛉

善虫の...

以中

善虫の...

至三

蚯蚓の...

苜蓿

蚯蚓の...

梅枝

藻虫の...

茶樹

藻虫の...

杉松

藻虫の...

呂指

藻虫の...

集

蜻蛉の...

花胡

蜻蛉の...

和胡

秋

蛸

蛸

蛸

蛸

蛸

蛸

釘鈴のききとつゝめけり

とちのききとつゝめけり

東のききとつゝめけり

日くもききとつゝめけり

あきもききとつゝめけり

重野もききとつゝめけり

蛸のききとつゝめけり

蛸のききとつゝめけり

秋のききとつゝめけり

鳴くききとつゝめけり

横江

里塘

李雪

蝶麦

童起

嶺如

尚水

柙飛

江山

古碩

秋

秋

阿きの蝶のききとつゝめけり

日けの蝶のききとつゝめけり

ひきの蝶のききとつゝめけり

青きの蝶のききとつゝめけり

甲きの蝶のききとつゝめけり

あきの蝶のききとつゝめけり

あきの蝶のききとつゝめけり

あきの蝶のききとつゝめけり

あきの蝶のききとつゝめけり

あきの蝶のききとつゝめけり

坂川

松橋

冬季

五升

呂鯨

雪馬

李中

度律

素牛

馬伝

残蚊  
秋繩

秋の蚊の細き声は  
焼くもなき火の蚊の如き  
のらりたる乃ねむる  
人言ふもなきのうら  
も成るもなきのうら  
曲雲と掃きゆくや  
秋のたふさくもなき  
秋のたふさくもなき  
あまの蝶をよみし  
蜂のてふまはれを

正里  
竹凡  
鳥若  
五來  
家凡  
致一  
海舟  
東芽  
古塘  
平角

秋蝶

秋世

鳩吹  
鷹山別  
樹出書

秋のたふさくもなき  
あまの蝶をよみし  
蜂のてふまはれを  
秋のたふさくもなき  
あまの蝶をよみし  
蜂のてふまはれを  
秋のたふさくもなき  
あまの蝶をよみし  
蜂のてふまはれを  
秋のたふさくもなき  
あまの蝶をよみし  
蜂のてふまはれを

只存  
露吟  
博子  
杉柿  
貝朱

荒鷹  
小鷹狩  
初鳥狩  
竜田姫

あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹

出羽  
花嫁  
古菜  
三鼓

八月

葉月  
八朔

あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹

李雲  
佐藤  
重厚  
鳥孝

秋廿二

田舎者  
繪行巻

あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹

寸高  
南洞  
楚時

彼岸

あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹

鳥岩  
文島

二百十日

あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹

志功  
茨口

出代

あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹

柳毛  
寸坊

駒牽

あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹  
あつ鷹のちあつ鷹の南あつ鷹

金泉



放生會

引釣も毎々一獲を拂つ  
遊之泥魚のうらやぶ中  
さしつと魚の心あはる  
さしつと魚の心あはる  
さしつと魚の心あはる  
さしつと魚の心あはる  
さしつと魚の心あはる  
さしつと魚の心あはる  
さしつと魚の心あはる  
さしつと魚の心あはる

下野 我聖

丹波 業戸

左の 霞孟

陸奥 徳樓

紀伊 丁目

考川

朝花

杜音

梅十

兼乙

待宵月

待宵月も月影の影  
待宵月も月影の影  
待宵月も月影の影  
待宵月も月影の影  
待宵月も月影の影  
待宵月も月影の影  
待宵月も月影の影  
待宵月も月影の影  
待宵月も月影の影  
待宵月も月影の影

秋九三

名月

名月も月影の影  
名月も月影の影  
名月も月影の影  
名月も月影の影  
名月も月影の影  
名月も月影の影  
名月も月影の影  
名月も月影の影  
名月も月影の影  
名月も月影の影

其知

徳意

太候

魯白

智馬

路静

吉行

菊二

若翁

性旬

<p>月          若月也          若月也          若月也          若月也          若月也          若月也          若月也          若月也          若月也</p>	<p>若月也          若月也          若月也          若月也          若月也          若月也          若月也          若月也          若月也</p>	<p>若月也          若月也          若月也          若月也          若月也          若月也          若月也          若月也          若月也</p>	<p>若月也          若月也          若月也          若月也          若月也          若月也          若月也          若月也          若月也</p>	<p>若月也          若月也          若月也          若月也          若月也          若月也          若月也          若月也          若月也</p>
<p>且末          古友          如法          素心          書花          牛茂          李山          逸号          六花          蝶委</p>	<p>且末          古友          如法          素心          書花          牛茂          李山          逸号          六花          蝶委</p>	<p>且末          古友          如法          素心          書花          牛茂          李山          逸号          六花          蝶委</p>	<p>且末          古友          如法          素心          書花          牛茂          李山          逸号          六花          蝶委</p>	<p>且末          古友          如法          素心          書花          牛茂          李山          逸号          六花          蝶委</p>

秋九四

<p>今日月          今日月          今日月          今日月          今日月          今日月          今日月          今日月          今日月</p>	<p>今日月          今日月          今日月          今日月          今日月          今日月          今日月          今日月</p>	<p>今日月          今日月          今日月          今日月          今日月          今日月          今日月          今日月</p>	<p>今日月          今日月          今日月          今日月          今日月          今日月          今日月          今日月</p>	<p>今日月          今日月          今日月          今日月          今日月          今日月          今日月          今日月</p>
<p>寒鴉          披雲          文母          連山          望雲          麻竹          園文          中理          航聚</p>	<p>寒鴉          披雲          文母          連山          望雲          麻竹          園文          中理          航聚</p>	<p>寒鴉          披雲          文母          連山          望雲          麻竹          園文          中理          航聚</p>	<p>寒鴉          披雲          文母          連山          望雲          麻竹          園文          中理          航聚</p>	<p>寒鴉          披雲          文母          連山          望雲          麻竹          園文          中理          航聚</p>

十六夜月

月はさかすまの光を照らし  
あつたつたを踊るも月を  
信じての月を照らす月を  
極つたつたを照らす月を  
水あつたつたを照らす月を  
海あつたつたを照らす月を  
雲あつたつたを照らす月を  
草あつたつたを照らす月を  
山あつたつたを照らす月を  
川あつたつたを照らす月を

素梅  
寸米  
官氣  
直  
筆  
牛行  
松  
仙鳥

秋廿五

立待月

いさよもやさうのさつたつた  
中六夜月を照らす月を  
将つたつたを照らす月を  
毛はつたつたを照らす月を  
十七夜月を照らす月を  
月あつたつたを照らす月を  
中六夜月を照らす月を  
十八夜月を照らす月を  
十九夜月を照らす月を

金生  
二柳  
松  
牛行  
愛睡  
幸日  
梅序  
如瓶  
未山

立待月

立待月

五中月

あしきらふあしきらふ人の心

あしき女

五中月

うき人の心はうつろひたつた

うつろひ

五中月

酒屋の女はさかづきもたふ

さかづき

五中月

花の心はさかづきもたふ

さかづき

五中月

あしき人の心はうつろひたつた

うつろひ

五中月

あしき人の心はうつろひたつた

うつろひ

五中月

あしき人の心はうつろひたつた

うつろひ

五中月

あしき人の心はうつろひたつた

うつろひ

五中月

あしき人の心はうつろひたつた

うつろひ

五中月

あしき人の心はうつろひたつた

うつろひ

秋其

三日月

あしき人の心はうつろひたつた

あしき

三日月

あしき人の心はうつろひたつた

あしき

三日月

あしき人の心はうつろひたつた

あしき

三日月

あしき人の心はうつろひたつた

あしき

三日月

あしき人の心はうつろひたつた

あしき

三日月

あしき人の心はうつろひたつた

あしき

三日月

あしき人の心はうつろひたつた

あしき

三日月

あしき人の心はうつろひたつた

あしき

三日月

あしき人の心はうつろひたつた

あしき

三日月

あしき人の心はうつろひたつた

あしき

雨月

おくまをたのむるはあまの月  
まじりてあまの月をたのむるは  
中よりあまの月をたのむるは  
あまの月をたのむるはあまの月  
あまの月をたのむるはあまの月  
あまの月をたのむるはあまの月  
あまの月をたのむるはあまの月  
あまの月をたのむるはあまの月  
あまの月をたのむるはあまの月

雨沼

菅地

二石

素山

鯨蔵

野馬

寔車

百井

野馬

丁江

初瀬

秋廿七

野分

あまの月をたのむるはあまの月  
あまの月をたのむるはあまの月  
あまの月をたのむるはあまの月  
あまの月をたのむるはあまの月  
あまの月をたのむるはあまの月  
あまの月をたのむるはあまの月  
あまの月をたのむるはあまの月  
あまの月をたのむるはあまの月  
あまの月をたのむるはあまの月  
あまの月をたのむるはあまの月

一兆

五來

千天

素海

李山

芦台

六合

桃東

猿愛

其中

朝寒

陣來

朝の雲もくもく夜は静かに  
秋の風もくもく心も静かに  
月も静かに照らす  
あはれもくもく心も静かに  
あはれもくもく心も静かに  
あはれもくもく心も静かに  
あはれもくもく心も静かに  
あはれもくもく心も静かに

秋廿八

鯉敬

末

潭月

上白

曾氏

歌石

黄治

菊二

漸寒

肌寒

夜重

秋廿八

秋

秋の夜は静かに  
月も静かに照らす  
あはれもくもく心も静かに  
あはれもくもく心も静かに  
あはれもくもく心も静かに  
あはれもくもく心も静かに  
あはれもくもく心も静かに  
あはれもくもく心も静かに  
あはれもくもく心も静かに

但了

里石

接子

五州

松雲

桂阿

木姿

泰山

吳生

振衣

青守

燕々

秋雨

秋風

八朝梅

初紅葉

薄

痛もくれば平也後の雨  
 晴もくれば平也後の雨  
 浪の連を秋の風も梅乃面  
 ありけり梅乃面も梅乃面  
 いりけり梅乃面も梅乃面  
 心細くも梅乃面も梅乃面  
 寂しくも梅乃面も梅乃面  
 心細くも梅乃面も梅乃面  
 寂しくも梅乃面も梅乃面  
 心細くも梅乃面も梅乃面  
 寂しくも梅乃面も梅乃面

石谷

九十

洞芝

蝶菱

佳睡

倉庫

盧川

家居

一路

白

秋廿九

秋風

八朝梅

初紅葉

薄

尾花

痛もくれば平也後の雨  
 晴もくれば平也後の雨  
 浪の連を秋の風も梅乃面  
 ありけり梅乃面も梅乃面  
 いりけり梅乃面も梅乃面  
 心細くも梅乃面も梅乃面  
 寂しくも梅乃面も梅乃面  
 心細くも梅乃面も梅乃面  
 寂しくも梅乃面も梅乃面  
 心細くも梅乃面も梅乃面  
 寂しくも梅乃面も梅乃面

未龍

二涼

二貞

青囊

半周

當車

鷺橋

只言

东寺

此村

芍薬  
花  
藍花  
紫苑  
露州

養子もや尾もななるに  
馬もさくも葉もくも  
うらもや一はるも  
新葉のしほも  
石のさくも  
丈のしほも  
露州も  
はるも

梅中  
巴陵  
李曹  
紫苑  
紫葉  
梅人  
篠葉  
湖隠

教三十

月草  
酸醬  
烏頭  
蓼花  
秋海棠

月草もや  
酸醬もや  
烏頭もや  
蓼花もや  
秋海棠もや

此三  
瓜泥  
化葉  
芍薬  
貝朱  
春溪  
芥室  
文里  
打坡  
狂序



芙蓉  
 昔のるり如き其の秋の心  
 管角の月をさしつるふらぬあし  
 紅くのるり色を帯びて如く  
 花よりさしつる如く芙蓉の  
 如くさしつる日影をさしつる芙蓉の  
 しくせふに似痛うのり芙蓉  
 ささるるに似る白くも木  
 ささるるのさしつる芙蓉の  
 しくさしつる又さしつる  
 昔のるりさしつる芙蓉の

准定  
 波臨  
 理玉  
 頤如  
 八水  
 水尺  
 秋里  
 沂風  
 知流  
 泉明

修り  
下池  
對り  
修り  
修り

秋三十一

葛花  
 梅木の枝をさしつる芙蓉の  
 我よりさしつる芙蓉の  
 昔のるりさしつる芙蓉の  
 つるりも隣をさしつる芙蓉の  
 霞をさしつる芙蓉の  
 折るるさしつる芙蓉の  
 深るる中をさしつる芙蓉の  
 下をさしつる芙蓉の  
 空をさしつる芙蓉の  
 おろりさしつる芙蓉の

馬北  
 泉々  
 四茶  
 坡明  
 望海  
 東支  
 葉夕  
 布旦  
 土珍  
 菱友

修り  
紀  
紀  
紀  
紀  
紀  
紀  
紀  
紀  
紀

鳳仙公  
 白粉堂

雞頭花

辰七のふたねの花うほはなれ  
久しきもさきもさきもさきも  
あつきの世も後世もあつきの  
そと世もあつきの世もあつきの  
あつきの世もあつきの世もあつきの  
あつきの世もあつきの世もあつきの  
あつきの世もあつきの世もあつきの  
あつきの世もあつきの世もあつきの

陸奥 條 緑

古 聲

石見 李 山

了 由

秋 水

文 鬼

宇 甲

土佐 古 歌

先右 芳 存

上右 可 溪

雁来紅

秋三十一

檀栢

寺人とも花もつらき葉も青

下郡 禹 切

葡萄

ふきのうら果のこころはな

陸奥 石 化

枣

きりぎりすもあつきの世もあつきの

陸奥 文 翠

冬瓜

かきつばたもあつきの世もあつきの

近江 秋 切

王瓜

うらなひもあつきの世もあつきの

石見 老 江

秋茄子

木と母とつらき秋のふたね

石見 有 輔

秋茄子

とどろきのふたねのあつきの

石見 花 城

秋茄子

とどろきのふたねのあつきの

石見 可 隆

秋茄子

とどろきのふたねのあつきの

石見 可 隆

秋茄子

とどろきのふたねのあつきの

石見 可 隆

柱茄子

この茄子もよく食うたはる果

江戸 佛外

柿

此の柿の皮を剥いて食う柿はよく食う

出羽 一和

芋

この芋の皮を剥いて食う芋はよく食う

尾張 愛睡

牛蒡

この牛蒡の皮を剥いて食う牛蒡はよく食う

加賀 了泉

綿株

この綿株の皮を剥いて食う綿株はよく食う

坂本 素牛

秋三十三

木賊刈

この木賊の皮を剥いて食う木賊はよく食う

但馬 外六

薬掘

この薬の皮を剥いて食う薬はよく食う

但馬 葛瓜

煙草花

この煙草の皮を剥いて食う煙草はよく食う

美濃 磨牛

若烟草

この若煙草の皮を剥いて食う若煙草はよく食う

信濃 杜右

若草花

この若草の皮を剥いて食う若草はよく食う

信濃 張雲

この草の皮を剥いて食う草はよく食う

信濃 浮屋

この草の皮を剥いて食う草はよく食う

信濃 如菊

この草の皮を剥いて食う草はよく食う

信濃 喜花

この草の皮を剥いて食う草はよく食う

信濃 幽管

罌粟蔞 效枝  
 貝刻菜 大和  
 薯蕷 流水  
 零餘子 湖萍  
 稻花 方怒  
 稻穂 葉二  
 道肥  
 雨橋  
 雨水  
 集志

秋三十一

落穂 押莊  
 稲穂 其雪  
 稲花 集志  
 稲守 土鈴  
 稲刈 菰庵  
 古抄

編舟

舟の舟より舟を繋ぎし入原

如

木羽

編垣

編舟の垣を築きし持

持

孤舟

編木

舟の掛を編み世を

但馬

松亭

編塚

編舟の舟を築きし

座

舎木

初磨

初磨の舟を築きし

紀伊

得皮

粟

粟の穂を築きし

長

墨雨

秋二千五

黍

黍の穂を築きし

左

宮松

蜀黍

蜀黍の穂を築きし

岳虹

稗

稗の穂を築きし

丁水

案山子

案山子の穂を築きし

石見

正巴

案山子の穂を築きし

薩

雪魚

案山子の穂を築きし

美法

六川

鳥警

鳥警 (Tsuru) 鳥警 (Tsuru) 鳥警 (Tsuru) 鳥警 (Tsuru) 鳥警 (Tsuru)  
 鳥警 (Tsuru) 鳥警 (Tsuru) 鳥警 (Tsuru) 鳥警 (Tsuru) 鳥警 (Tsuru)  
 鳥警 (Tsuru) 鳥警 (Tsuru) 鳥警 (Tsuru) 鳥警 (Tsuru) 鳥警 (Tsuru)  
 鳥警 (Tsuru) 鳥警 (Tsuru) 鳥警 (Tsuru) 鳥警 (Tsuru) 鳥警 (Tsuru)  
 鳥警 (Tsuru) 鳥警 (Tsuru) 鳥警 (Tsuru) 鳥警 (Tsuru) 鳥警 (Tsuru)

貞門 文志 雅流 曾秀 吉容 五鹿 李鏡 未周 佐善 馬秋

秋三十六

鳴子

鳴子 (Naruse) 鳴子 (Naruse) 鳴子 (Naruse) 鳴子 (Naruse) 鳴子 (Naruse)  
 鳴子 (Naruse) 鳴子 (Naruse) 鳴子 (Naruse) 鳴子 (Naruse) 鳴子 (Naruse)  
 鳴子 (Naruse) 鳴子 (Naruse) 鳴子 (Naruse) 鳴子 (Naruse) 鳴子 (Naruse)  
 鳴子 (Naruse) 鳴子 (Naruse) 鳴子 (Naruse) 鳴子 (Naruse) 鳴子 (Naruse)  
 鳴子 (Naruse) 鳴子 (Naruse) 鳴子 (Naruse) 鳴子 (Naruse) 鳴子 (Naruse)

鳥名 谷水 杜良 羅人 一朝 鄰史 野橋 紫二 訖化 尺艾

引板

添水

燒帛

落水

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十

秋三十七

秋水

擣衣

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十

初雁

しらべのつらさ ちかづきのお借を  
確けし ちかづきのお借を  
しらべのつらさ ちかづきのお借を  
しらべのつらさ ちかづきのお借を  
しらべのつらさ ちかづきのお借を  
しらべのつらさ ちかづきのお借を  
しらべのつらさ ちかづきのお借を  
しらべのつらさ ちかづきのお借を  
しらべのつらさ ちかづきのお借を  
しらべのつらさ ちかづきのお借を

柳丈 秋の女  
宇多 秋の女  
桐子 口戸  
葵三 石見  
善島 安房  
秀枝 坂左  
尾善 坂左  
晴基

秋五十八

雁

しらべのつらさ ちかづきのお借を  
しらべのつらさ ちかづきのお借を  
しらべのつらさ ちかづきのお借を  
しらべのつらさ ちかづきのお借を  
しらべのつらさ ちかづきのお借を  
しらべのつらさ ちかづきのお借を  
しらべのつらさ ちかづきのお借を  
しらべのつらさ ちかづきのお借を  
しらべのつらさ ちかづきのお借を  
しらべのつらさ ちかづきのお借を

小水 秋中  
柳牛 口戸  
其丈 後改  
来起  
布衣  
吉行  
立季 冬  
森光  
巴陵



流口 佐法  
 蝶妻 佐法  
 對水 其  
 兒稚 其  
 一斤 其  
 葉二 其  
 素元 其  
 五川 其  
 里芳 其

鷓鴣  
 有夢 如平  
 綺之 末  
 潮路 末  
 巴文 之何  
 瑞朝 其  
 泰電 其  
 風广 其  
 坡曉 其

鴨 椋鳥 椋鳥 翠雀 山雀

若くは形は是れよりいふか  
 地よりけりまのまうく勢成  
 ひよをも今より何のまを  
 鴨のまもいふまをまを  
 ちもも木にまを印木を  
 かしらうらまを椋のまを  
 のまをいふまをいふまを  
 川をいふまをいふまを  
 山をいふまをいふまを  
 のまをいふまをいふまを

一棠  
 燕兒  
 文雅  
 以海  
 桃水  
 集雲  
 蛙考  
 葛存  
 徳聖  
 福花

秋四十

四十雀 二十雀 連符 類赤 目白 啄木 鷓鴣

凡しつらり初もいふまを  
 木のまをいふまをいふまを  
 天今もいふまをいふまを  
 木のまをいふまをいふまを  
 木のまをいふまをいふまを  
 木のまをいふまをいふまを  
 木のまをいふまをいふまを  
 木のまをいふまをいふまを  
 木のまをいふまをいふまを  
 木のまをいふまをいふまを

如中 煉陽  
 紀中 春香  
 近江 喜情  
 東 一晴  
 陸奥 丁水  
 陸奥 語来  
 東走  
 美法 行権  
 伊勢 棠宇  
 他馬 唄糸

鴨柳堂

あつちの成結ありあや尻の埭

左に 結家如

鶴鶴

あつちの成結ありあや尻の埭

之に 之沖

鶺鴒

あつちの成結ありあや尻の埭

紀伊 塘雨

菊裁

あつちの成結ありあや尻の埭

紀伊 重古

斑鳩

あつちの成結ありあや尻の埭

紀伊 頂雪

稻負鳥

あつちの成結ありあや尻の埭

信濃 二杏

帰燕

あつちの成結ありあや尻の埭

信濃 文可

四十五

あつちの成結ありあや尻の埭

信濃 大略

秋四十一

鷓鴣

あつちの成結ありあや尻の埭

玉屑

色鳥

あつちの成結ありあや尻の埭

夢善

渡鳥

あつちの成結ありあや尻の埭

文如

渡鳥

あつちの成結ありあや尻の埭

雨路

渡鳥

あつちの成結ありあや尻の埭

扇南

渡鳥

あつちの成結ありあや尻の埭

荷津

渡鳥

あつちの成結ありあや尻の埭

唱祖

渡鳥

あつちの成結ありあや尻の埭

蒲箒

河鹿

あつちの成結ありあや尻の埭

温中

河鹿

あつちの成結ありあや尻の埭

航聚

太刀魚 たち魚の熟やひるまを及の波  
 沙魚 在せ約や肥のまふ法結しぬ  
 江鮭 毎昔又の如くさう其魚の魚  
 小澤江鮭  
 鱸 夕白くふすま丹只也料理の旨  
 初鰯 廻つてさ下さう踏らぬ糸那  
 小鰯 花とさ細より鮭のものもさ  
 落鮎 小うもむしりもさる今さる  
 落鮎 けしりの人ありさけの鰯引  
 落鮎 為鮎のちりん中らとさるよ

寺陸 雲波  
如 宜泰  
信不 信不  
丹 買莫  
之川 写妙  
 谷水

秋四十二

落鮎の思ふさうさう中那らぬ  
 おら鮎もされおさる下世花さる  
 為あやも 寂れ林の葉もさる  
 鮎もさるれさる鮎の思ふさう  
 さる鮎の思ふさるその産う  
 産科丸の思ふさるさる下し葉  
 産科丸の思ふさるさる下し葉  
 志の産て鮎もさる葉末の山  
 世の産も我らもさる葉末の山  
 大風の産る産る産るの山

近江 圃文  
石見 風沖  
海野 二鳥  
紋后 和席  
天佐 送三  
淡波 香山  
 芦笛  
 瓦合  
 南善  
 松亭

下築  
 鮎穴入  
 鹿

鹿角

鹿角のつらみはしるしなり  
つらみは鹿のつらみなり  
鹿のつらみはしるしなり  
つらみは鹿のつらみなり  
鹿のつらみはしるしなり  
つらみは鹿のつらみなり  
鹿のつらみはしるしなり  
つらみは鹿のつらみなり

鹿角 鹿角 鹿角 鹿角 鹿角 鹿角 鹿角 鹿角

秋甲十三

九月

九月のつらみはしるしなり  
つらみは鹿のつらみなり  
鹿のつらみはしるしなり  
つらみは鹿のつらみなり

鹿角 鹿角 鹿角 鹿角

長月

長月のつらみはしるしなり  
つらみは鹿のつらみなり  
鹿のつらみはしるしなり  
つらみは鹿のつらみなり

鹿角 鹿角 鹿角 鹿角

重陽

重陽のつらみはしるしなり  
つらみは鹿のつらみなり  
鹿のつらみはしるしなり  
つらみは鹿のつらみなり

鹿角 鹿角 鹿角 鹿角

栗祝

栗祝のつらみはしるしなり  
つらみは鹿のつらみなり  
鹿のつらみはしるしなり  
つらみは鹿のつらみなり

鹿角 鹿角 鹿角 鹿角

雜系

粟

菊酒

葉

の此乃辨さるる十二三寸の  
 九寸の葉を以て其の人の後の雛  
 坊のひまわり天竺の女の葉を  
 五斗の酒を以て白くまき入る酒  
 露を以て福の初めを舞海  
 古酒を以て其の葉を以て其の  
 七の葉を以て其の葉を以て其の  
 一の葉を以て其の葉を以て其の  
 打とて其の葉を以て其の葉を以て  
 葉を以て其の葉を以て其の葉を以て

雪居  
 幽籠  
 芦酒  
 桑布  
 菲伯  
 茅白  
 其由  
 梅々  
 此系  
 麦光

秋四十四

葉系

菊合

此の葉を以て其の葉を以て其の葉を以て  
 其の葉を以て其の葉を以て其の葉を以て  
 其の葉を以て其の葉を以て其の葉を以て  
 其の葉を以て其の葉を以て其の葉を以て  
 其の葉を以て其の葉を以て其の葉を以て  
 其の葉を以て其の葉を以て其の葉を以て  
 其の葉を以て其の葉を以て其の葉を以て  
 其の葉を以て其の葉を以て其の葉を以て

樵山  
 古行  
 奇評  
 古友  
 芝峯  
 塘雨  
 雨路  
 故栖  
 寸草  
 旧園

牛糸

土壘上野 可群後洛 野涼丹后 梅东大和 幽軒何者 右牛七 寸糸 菱菴 山梅津 東瓦

秋四十五

十日兼

残葉

交市  
外市  
後名月

雨候何川 葉下梅津 出人 白居鹿更 蝶菱 篠破養十 非立 千影純仲 三寒真法 卓五

見... 影... 月... 禮... 入... 支... 百... 野... 有... 平... 角... 二... 柙... 立... 行... 禮... 布... 千... 河... 成... 文...

秋四十六

名残月... 長石月... 紅葉... 其朝... 花毛... 白甫... 眉山... 吳竺... 此... 義... 其... 行... 甚... 善... 素... 凡...



萬紅葉	深紅葉	梅紅葉	梅紅葉	梅紅葉	梅紅葉	梅紅葉	梅紅葉	梅紅葉	梅紅葉	梅紅葉
李もとのまき	弁結本	外結本	外結本	外結本	外結本	外結本	外結本	外結本	外結本	外結本
紀伊	紀伊	紀伊	紀伊	紀伊	紀伊	紀伊	紀伊	紀伊	紀伊	紀伊
左江	文尺	山翠	桂唐	花鳩	曉基	中台	山翠	葉二	青楓	

秋四十七

栗	銀杏	鴨脚	不色葉松	梅紅葉	梅紅葉	梅紅葉	梅紅葉	梅紅葉	梅紅葉	梅紅葉	梅紅葉
くろくま	まんげん	しんじゆ	むしり	かみ	かみ	かみ	かみ	かみ	かみ	かみ	かみ
紀伊	紀伊	紀伊	陸奥	紀伊	紀伊	紀伊	紀伊	紀伊	紀伊	紀伊	紀伊
吐曉	一竿	松字	貝朱	花朗	拍水	曾秋	杜栗	左莖	雨上		

法核	柞	椎	榛	固栗
法核は海に生ずる木也 志は神也	柞は木也 阿波に生ずる木也	椎は木也 志は神也	榛は木也 志は神也	固栗は木也 志は神也
魚沼	其白	是右	杜栗	如栗
二柞				

廿八

柚	金柑	蜜柑	熟核
柚は木也 志は神也	金柑は木也 志は神也	蜜柑は木也 志は神也	熟核は木也 志は神也
道肥	路静	冬李	橘



南天子	袋手楽し人今北金出もる	誰姿
菩提子	しらんは金只もふくむ草花	一徹
鴨上京	古もをさし出るふも上京	秀咲
仙蓼	甘もを猫師ふくふ山	麦雨
梅嫌	ちんちん風もさう	仙市
木實	梅嫌もふもさう	竹風
老舞美	く大徳流進もさう	可字
吾赤紅	為る梅のさう	东走
	中月舟もさう	士川
	地檢あるふ砂乃る	

秋五十

草實	竹中の中	仙人
思州	大戸中	伊集
龍膽	草花	素約
草花	丹士	丹士
薄散	涼夕	李芳
	翅蘭	青容
	草白	

松露 竹の節の小貝糸よりせしむる  
 松茸 搔ぐすまのまゝに松茸を煮た  
 松茸 煮て干し置かざるに干す  
 初茸 煮茸や採りて干す  
 紅茸 海茸の干皮あるものも採り  
 檀茸 干す茸の皮を剥き置かざるに干す  
 黄茸 干す茸の皮を剥き置かざるに干す  
 針茸 干す茸の皮を剥き置かざるに干す  
 草狩 干す茸の皮を剥き置かざるに干す  
 木菌狩 干す茸の皮を剥き置かざるに干す  
 裏枯 干す茸の皮を剥き置かざるに干す

其則 其則  
雨沼 雨沼  
以流 以流  
東龍 東龍  
林泉 林泉  
自來 自來  
蝶夢 蝶夢

蕨草 干す茸の皮を剥き置かざるに干す  
 針茸 干す茸の皮を剥き置かざるに干す  
 草狩 干す茸の皮を剥き置かざるに干す  
 木菌狩 干す茸の皮を剥き置かざるに干す  
 裏枯 干す茸の皮を剥き置かざるに干す

九和 九和  
西厓 西厓  
向山 向山  
篠袴 篠袴  
鄙長 鄙長  
稼良 稼良  
卧猪 卧猪  
只言 只言  
喜路 喜路  
仙臺 仙臺

野山錦

木之葉不月如井の畦山を  
彦乃とまきくくく西の縁

上法  
佐及

漆掻

狂乃ふくく野山錦のうら  
くくか入人ききか持くく

加安  
素兄

株

一時を首あまら狂おし福を  
杉の葉は落るは田乃おくく

下世  
虎来

刈田

編稼りきりお林のうら  
何りあうまきく株乃義文の系

加安  
了帝

秋五十二

文里

新葉

足おきく冬都くく何かり田  
鶴のまてわきく株きき刈田

新名  
柳几

新茶

新茶のけ田をまきく日お白  
羽葉のけ事たりおくく七又三

侍智  
羽徳

新酒

志ん米也斗のけ種け極きめ  
新茶のけ甘日角の肥きめ

丹波  
龍渚

今迄

牛のまきく機極きき新海  
くくく酒もきききくく白のけ

徐生

李郊

濁酒 中酒の濁りも多きを月のくれ  
 古酒 新海を遠く出たり古酒の研  
 初鴨 たるも思や刈りぬ水田はほと  
 尾越鴨 朝の葉や尾をひ鴨も吹り  
 霜躑鹿 尾をひきも小毎成るが胸  
 熊栗棚 鳴るや栗もたき通る麻  
 雀為蛤 霜躑よりと也其の鳴り  
 豺狼獸 栗の棚り止まる能くも  
 狼乃まろりふ海りすくも那

桐茂 三の  
 雲道 大陽  
 花朧 女  
 山魚 目防  
 雉木  
 雀橋  
 晋信

秋五十二

崩築 かも柳文つきまの海城と  
 網代打 ぬも竹葉のうりも  
 新綿 へま葉ちりぬ柳葉は  
 綿打 田よも稲より果てあ  
 綿操 網代も柳の言さくたる夜  
 綿操 新綿や志る葉に  
 綿打 竹もたけさくも  
 綿操 綿もちや紙帳より  
 綿操 綿よりや十帝其果の文つ夜

藤亭 紀伊  
 竜川 待久  
 友固 梅津  
 編茗 一呼  
 故栖 鷹橋  
 鷹橋 鷹橋  
 秋号

星月夜

月は輝き星は散るるるる乃乃喜  
そのまにわきわきなり軍月よ  
さしほのむもあつちほ月夜  
晴れゆくもあつちほ月夜  
あつちほあつちほあつちほ  
音のあつちほあつちほあつちほ  
あつちほあつちほあつちほあつちほ  
あつちほあつちほあつちほあつちほ  
あつちほあつちほあつちほあつちほ  
あつちほあつちほあつちほあつちほ

臨善

集家

徳棟

左朝

其白

柳郊

棠故

勁凡

竹風

齒古

露時雨

あつちほあつちほあつちほあつちほ  
あつちほあつちほあつちほあつちほ  
あつちほあつちほあつちほあつちほ  
あつちほあつちほあつちほあつちほ  
あつちほあつちほあつちほあつちほ  
あつちほあつちほあつちほあつちほ  
あつちほあつちほあつちほあつちほ  
あつちほあつちほあつちほあつちほ

秋五十四

露霜

あつちほあつちほあつちほあつちほ  
あつちほあつちほあつちほあつちほ  
あつちほあつちほあつちほあつちほ  
あつちほあつちほあつちほあつちほ  
あつちほあつちほあつちほあつちほ  
あつちほあつちほあつちほあつちほ  
あつちほあつちほあつちほあつちほ  
あつちほあつちほあつちほあつちほ

五有

二給

望橋

蘭蕙

是月

集家

士朗

重原

素以

菊徳

秋霜

秋夜

秋夜



長夜

灯心紙はゆきも秋の夜半より  
 方々紙巻やいふ事ありしもの事  
 寝てはしつてゐるも秋の夜半より  
 静かなるさかたき事かきとる者  
 ちまたもやいふ事ありては静かなる  
 東もさかたき事かきとる者  
 長夜もさかたき事かきとる者  
 破傘もさかたき事かきとる者  
 永くもさかたき事かきとる者

公輅  
 五牛  
 魯白  
 集  
 利字  
 敬菴  
 航要  
 白雄  
 五来  
 荒振

秋五十五

秋暮

年々もさかたき事かきとる者  
 月夜もさかたき事かきとる者  
 雨もさかたき事かきとる者  
 心もさかたき事かきとる者  
 夢もさかたき事かきとる者  
 手もさかたき事かきとる者  
 足もさかたき事かきとる者  
 舌もさかたき事かきとる者  
 好もさかたき事かきとる者  
 悪もさかたき事かきとる者

路人  
 集  
 雙牛  
 三泉  
 曹妹  
 野上  
 蘭戸  
 东籬  
 芦皓  
 瓦全

秋

雲もけん念ひの秋やあもりの春  
 出るらん旅人の心も秋乃の  
 向ふも雲を秋はほも秋乃の  
 けりし海も秋乃の秋乃の  
 秋乃の秋乃の秋乃の  
 秋乃の秋乃の秋乃の  
 秋乃の秋乃の秋乃の  
 秋乃の秋乃の秋乃の  
 秋乃の秋乃の秋乃の

鳥瓢 記件  
 通俄  
 古何  
 藤妻 左  
 草壁  
 松清  
 杜由  
 百尾 拾作  
 左言 美法  
 百重

秋五十六

春秋

けりし旅人の心も秋乃の  
 出るらん旅人の心も秋乃の  
 向ふも雲を秋はほも秋乃の  
 けりし海も秋乃の秋乃の  
 秋乃の秋乃の秋乃の  
 秋乃の秋乃の秋乃の  
 秋乃の秋乃の秋乃の  
 秋乃の秋乃の秋乃の  
 秋乃の秋乃の秋乃の

青井  
 菊二  
 堀里  
 抱瓦  
 芦水  
 庵早  
 依弓  
 雲甲 とに  
 栞雨 伊吉  
 巳四

行秋

美の秋平も秋徳も通る日  
木心も丹心も言く是れ秋  
はまや秋の山も夕は日  
冬もくも頻り物のはり  
秋やも冬もくも舟の渡  
仍秋や目もくも舟の渡  
河の秋も冬もくも舟の渡  
秋やも冬もくも舟の渡  
秋の秋も冬もくも舟の渡

一路  
石蘭  
坡及  
楓子  
落石  
其白  
舞器  
妻鴉  
杜音  
臺山

秋十七

秋惜

冬近

行の秋も冬もくも舟の渡  
秋の秋も冬もくも舟の渡  
秋の秋も冬もくも舟の渡  
秋の秋も冬もくも舟の渡  
秋の秋も冬もくも舟の渡  
秋の秋も冬もくも舟の渡  
秋の秋も冬もくも舟の渡  
秋の秋も冬もくも舟の渡  
秋の秋も冬もくも舟の渡  
秋の秋も冬もくも舟の渡

立來  
林鳥  
枕壘  
凡和  
蝶碎  
龜淵  
如在  
彩石  
但了  
寸枝  
石苑

冬待

冬まつりや梅もさきも咲くは  
小満もつゝ冬のはまもすき心  
片時も豆蔵のつゝ冬もは  
難防ちりもさるゝ九月  
漬をさるゝ秋のまは九月  
吐きもさるゝ秋のまは九月

九月

稼良  
几葦  
江山  
東朝  
野上  
竹麻  
海老

秋五十八

